

ときつちょう うちどく すいしん
時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

ていがくねん む なつごう
低学年向け 2025年 夏号



発行：ときつちょうりつときつとしょかん

うちどく 家読とは

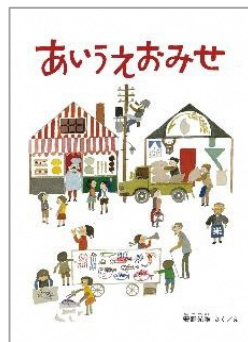
かぞく はな す ほん よ よ
家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく（家読）」です。難しいルールは要りません。

かぞく みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

かぞく おなじ ほん をよみあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



Illustrator ATSUKO



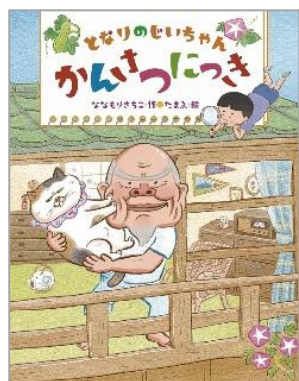
「あいうえおみせ」
安野 光雅/さく・え（福音館書店）

みせ やさんが、上の段はあいうえお、下の段はいろはにほへと順に並んでいます。どんなお店やさんがあるのかな？今ではあまり見かけないお店もあります。ほかに、「あ」で始まるお店はないかな？と家族で考えながら見るのも楽しい絵本です。



「星をつるよる」
キム サングン//ぶん え すんみ//やく
（パイインターナショナル）

ねむれないよる、そらひかりむかかって「だれか、あそぼ」と声をかけてみたら、ほしがおりてきて、うさぎさんにつりあげられました。うさぎさんもねむれなかったんだね。そして、また糸をたらすと、今度は海のかにさんをつりあげました。やっぱりかにさんもねむれなかったらしい。こうして、どんどんねむれないこがつりあげられて、最後に つりあげられたものは？



「となりのじいちゃんかんさつにっき」
ななもり さちこ/作 たまゑ/絵（理論社）

なつやすみ あさがお か
夏休み、朝顔を枯らしてしまったようたは、おとなりの家の朝顔で観察日記をつけることにしました。朝顔を観察しているうちようたは、朝顔よりもおとなりのおじいさん・シゲじいに興味があります。ようたとシゲじいのゆかいな夏休みの物語です。



「どろぼう猫とキラキラのミライ」
小手鞠 るい/作 早川 世詩男/絵（静山社）

とう かあ どめ けっこん きょうだい
お父さんとお母さんの2度目の結婚で兄妹になった遊と光の家には、遊に捨てられた黒猫のミライがいます。実はミライは普通の猫ではなく、「どろぼう猫学校」にかよう、とくべつな猫だったのです。そして、ミライのせいで遊と光のからだが入れ替わってしまっ...

どろぼう猫シリーズの第3巻です。



「大ピンチずかん 3」
鈴木 のりたけ/作（小学館）

ふだんせいかつ なか だい
普段生活している中で起こる大ピンチなことをまとめた大人気シリーズの第3弾です。大ピンチにはそれぞれ「大ピンチレベル」がつけられ、対策ものっています。きっとあなたが経験したことのある大ピンチものっています。ぜひおうちの人と「あるある」と共感したり、お話ししながら読んでみてください。



「わたしのちいさないきものえん」
大島 加奈子/作（福音館書店）

ダンゴムシ、カタツムリ、オタマジャクシ…。ほいくえんのほぼさんになったつもりで、みじかにいるいきものをそだててみませんか？おせわをすることで、小さくてもたいせつないのちのかがやき。かぞくでよみたい、夏休みにぴったりの本です。